

図書館(紙)資料修理についての<基本的な考え方と技術>

しんのメモ

「利用のための資料保存」5つの方法:

「防ぐ」「点検する」「治す」「取り替える」「捨てる」

強引な修理はダメ! 時には治さない方がよいことも。

(利用頻度、重要性、壊れ具合を考えて)

その資料にとってもっとも適切な対処を。

◎利用に耐えうる最小限の修理。

予防的観点からの修理。
なるべく手間をかけない。
見栄えより機能回復。違和感のない程度に。

修復の基本(IFLA)

- 原形を尊重
- 可逆性
- 安全な材料

強固にするのではなく、柔らかく仕上げる。

(⇒ 和紙、でんぷん糊、少量の糊)

<これを実現するための4つのポイント↓>

- 補修テープ(接着剤付き)ではなく、材料(紙、布など)と糊での修理が基本。

補修テープの欠点

- ・劣化が心配
- ・その部分は丈夫になるが、他の部分を壊しやすい。
- ・剥がそうとしても剥れない。再修理不可。
- ・折れ曲がる部分など力のかかる部分は剥れやすい。

- 紙の目に注意!

- 糊は薄く(濃さ)、薄く(厚さ)。

ポイント: ①よく練って、均一に溶かす。

②均一に、まんべんなく塗り、よくなじませる。

③乾くまでよく押さえる。擦る。

はみ出たらふき取る。貼ったら押さえる。

- 乾くまで形を整えて、板で挟んで重し(締め機)を!

一度に一ヶ所、一工程。

都立中央図書館ホームページ > トップ > 都立図書館について > 資料収集・保存について > 資料保存

http://www.library.metro.tokyo.jp/about_us/syusyu_hozon/siryou_hozon/tabid/2104/Default.aspx